

まで毎月 北國新聞で紙面特集、金沢ケーブルテレビネットでも2話放送

月は輪島市と津幡町が話の舞台

第21話「白比丘尼と椿」あすから放送

金沢ケーブルテレビネット(KCT)は1日から、「常田富士男さんと歩く加賀・能登むかし話の旅」の第21話「白比丘尼と椿」(輪島市)を「北國新聞 ニュース・プラス」(地デジ9ch)で放送します。人気アニメ「まんが日本昔ばなし」のナレーションで知られる声優の常田さんが語り部となり、切り絵風アニメとともに紹介します。15日からは、第22話の「蓮如太鼓」(津幡町)を放送します。

北國新聞社やKCTなどで行っている実行委員会が昨年4月から始めた企画で、3月までに県内全19市町の昔話24話を取り上げます。毎月2話ずつ北國新聞社は紙面特集で、KCTは1話15分番組で紹介しています。

人魚の肉で永遠の命

娘は若い姿で生き続け……

800歳を超えているという白比丘尼



白比丘尼と椿(輪島市)

輪島に伝わる話である。毎春、村々を巡り、白い雪の中に赤い椿の花を咲かせていく娘がいた。その娘は尼さんのような姿をしていて、肌が透き通るように白く、人は白比丘尼と呼んでいた。実際の年齢は800歳を超えていたそうだが、不思議なことに、いつ会っても娘の姿のままだった。ムジナからもらった人魚の肉を口にしたため、年を取らず、永遠の命を得たというのだが……

解説

白比丘尼は、八百比丘尼とも言われています。京都に現れたとの記録も残っています。1000年経つと若返り、いつまでも死ねない身を嘆いて各地を旅したとも伝わります。白比丘尼が植えたとされる椿は能登の海岸線に多く、珠洲市上戸町の逆さ杉、能登町瑞穂の杉など、杉や松の伝承もあります。(加能民俗の会副会長・西山郷史さん)